

平成 26 年度「英語能力判定テスト」における 阪南中学校の結果の概要と今後の取組について

大阪市では、生徒の英語力の充実と向上を図るため、教育振興基本計画^{*}に基づき、英語イノベーション事業^{*}の一環として、「英語能力判定テスト」を実施いたしました。このテストの目的は、生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、学校における英語の指導の改善を図ることにあります。

学習指導要領における中学校英語の目標は、4技能（「読む」「聞く」「話す」「書く」）を総合的に活用できるコミュニケーション能力の育成と示されています。本テストで測定できるのは英語力の一部ですが、本校では、結果をふまえ、生徒の総合的な英語力向上を目指してまいります。

- 1 目 的 (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
(2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の改善、工夫に役立てる。

2 対 象 大阪市立中学校 全生徒

3 実 施 日
・ 3年生 平成26年10月31日（金）
・ 2年生 平成27年 2月 4日（水）
・ 1年生 平成27年 2月 3日（火）

4 内 容

学年	テストの種類	テストの難易度	テスト内容		満点スコア
			筆記問題	リスニング問題	
3年	テストD	英検3～5級レベル	50題	30題	460点
2年	テストE	英検4～5級レベル	40題	25題	400点
1年	テストF	英検5級レベル	25題	25題	340点

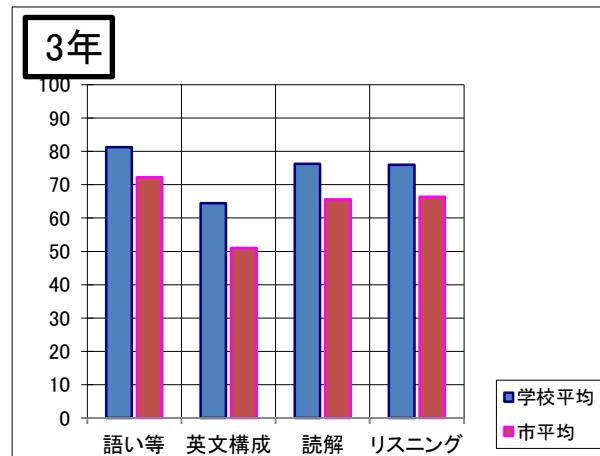
*教育振興基本計画…本市の教育振興のための施策に関する基本的な計画

*英語イノベーション事業…本市の英語教育強化を図るための事業

「英語能力判定テスト」結果の概要と今後の取組 阪南中学校

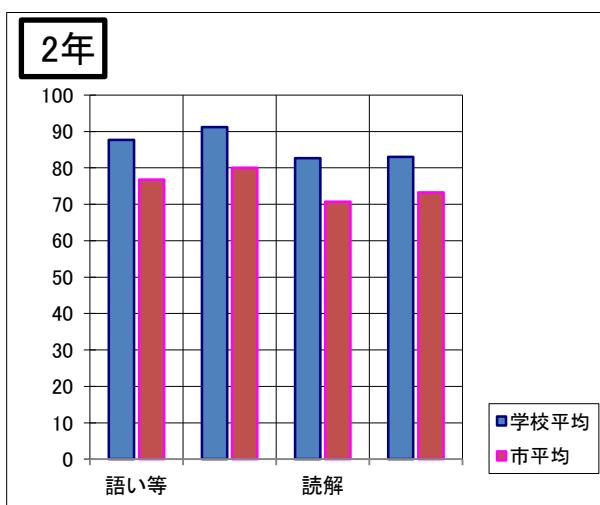
3年	語い等	英文構成	読解	リスニング
学校平均	81.3	64.5	76.3	76
市平均	72.2	51	65.6	66.4

(%)



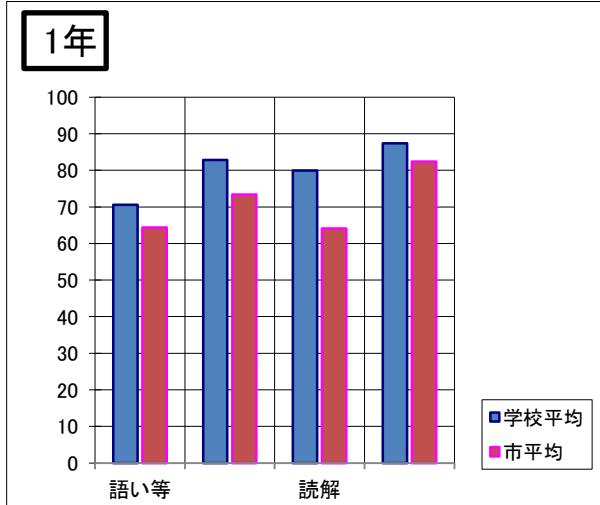
2年	語い等	英文構成	読解	リスニング
学校平均	87.7	91.2	82.7	83
市平均	76.8	80	70.7	73.3

(%)



1年	語い等	英文構成	読解	リスニング
学校平均	70.6	82.8	79.9	87.4
市平均	64.4	73.4	64.1	82.4

(%)



結果の概要と結果をふまえた今後の取組

※各学年において実施したテストはそれぞれ種類が異なるため、学年間の正答率を比較することはできません。

3年 英検3～5級レベル:スコア 0～460点

『結果の概要』

4分野とも正答率は市平均を上回っている。特に、「語い等」「読解」「リスニング」の3分野の正答率は7割を超えており、「英文構成」については、市平均を大きく上回っているが、6割強にとどまっている。

『結果をふまえた今後の取組』

4分野の中では「英文構成」の正答率は低くないので、語い、文法を基本として英作力を高めさせる必要がある。そのために、テーマを決めた英文を数多く書かせ、英作力の向上に取り組む。

2年 英検4～5級レベル:スコア 0～400点

『結果の概要』

「語い等」「英文構成」「読解」「リスニング」の4分野とも正答率は市平均を上回り、全てで8割を超えており、特に「読解」においては、市平均より12ポイント高い。

『結果をふまえた今後の取組』

「語い等」については、単語テストを数多く実施し、語い力の向上に努める。

「リスニング」の力は、他の分野に比べると低い傾向にある。そのため、C-NETを活用し、リスニング力を高める活動や、リスニングテストを授業の中で多く取り入れる。

1年 英検5級レベル:スコア 0～340点

『結果の概要』

「語い等」「英文構成」「読解」「リスニング」の4分野とも正答率は市平均を上回っている。特に「英文構成」「リスニング」においては8割を超え、「読解」においては市平均より15ポイント以上高い。「語い等」は市平均との差が低くなっている。

『結果をふまえた今後の取組』

「読解力」をより向上させるために、「語い力」をつける必要がある。基礎・基本の定着を図り、ICTを活用した授業を開発する。また、連語などの定着を図り、習熟度に応じて発展的な内容にも取り組む。